



新年おめでとうございます。会員企業の益々のご発展を祈念いたします。

昨年は不幸にも東日本大震災が発生いたしました。震災直後は復旧、復興が声高に叫ばれ続けていましたが、同時に発生した福島原発事故の冷温停止がままならない状況では、長丁場になりそうな感じがいたします。自然災害に人災が加担したのではとても通常の状況ではないようです。自然災害と言えば、年明け早々、新燃岳の52年ぶりとなる爆発的噴火、大震災後の度重なる余震、7月と9月の台風、タイ国での大洪水など、自然の猛威に翻弄されてしまいました。また、原発事故は新たに風評被害を生むことになってしまいました。大震災からすでに8カ月余りが経過し、ようやく国の第3次補正予算が可決され、復興への足がかりが形だけとはいえ、できたものかと思えます。しかし、一方で長い道程のような気がいたします。

本会の被災されました会員企業におかれましては一日も早い復興を祈念するばかりです。ある講演会で東日本大震災の岩手県の被害、主に水産業に関する講演を聴講する機会がありました。岩手県では沿岸の北は洋野町から南の陸前高田市まで12市町村で甚大な被害を受け、とくに陸前高田市の被害は大きいとのことでした。テレビに映し出される1本の松の木がその象徴ともいえるかもしれません。岩手県の産業被害額は6,000億円を超え、そのうち水産業・漁港被害額は約3,600億円で、産業被害の6割は漁港のようです。水産業の復興には漁港の改修が先決課題で、そのためにはスピードが必要ではないかと思えます。

このような自然災害時における食料品や飲料水の確保に関心が高まっています。缶詰、びん詰、レトルト食品は災害用の備蓄食品としても認識されていますが、大震

災を契機に消費者から高い関心を寄せられております。容器詰食品を手にとりいただく機会が増え、非常時だけでなく通常の生活においても利用していただけるよう“おいしいものをよりおいしく”，安全・安心な食品としてのイメージアップを図る機会ではないでしょうか。

会員企業のがんばりに注目しつつ、本年もご支援いただきますよう業務に精励していく所存ですのでよろしくお願いたします。（常務理事 研究所長 駒木 勝）

〈2011年11月の主な業務〉

試験・研究・調査

1. 容器詰食品のヒスタミンの挙動について、2. 食品中のフランについて、3. 市販加工品および清涼飲料水の生菌数測定、pH、Awの測定、4. 食品固形物のテクスチャー、5. 回転殺菌の熱伝達シミュレーション。

依頼試験

新規受付23件、前月より繰り越し10件、合計33件。うち完了22件、来月へ繰り越し11件。

主要項目：試験（貯蔵、耐熱性、細菌、容器密封状）、異物検定、原因究明（変色、膨脹、変敗）、菌株同定、測定（生菌数、かたさ）、研修、殺菌、英文証明書作成、ホームページ管理、通関統計データ処理。

FDA登録支援事業

新規受付2件、前月より繰り越し3件、合計5件。うち完了1件、来月へ繰り越し4件。

主要項目：英文証明書作成。

その他

1. 第60回技術大会研究報告および事務局業務、2. 食品安全委員会のリスクコミュニケーションに関する講演会聴講、3. 水産利用懇話会出席および講演聴講、4. 食品微生物技術懇話会主催講演会聴講、5. チルド食品研究会会議開催、6. 「水産加工品中のヒスタミン含有濃度実態調査」関係業務、7. 公益財団法人東洋食品研究所主催オープンセミナー講師担当、8. ホームページリニューアル作業、9. 缶詰食品翻訳校正作業、10. 会員サービス他（技術相談、文献調査、見学対応、電話、電子メール回答）。